

## 【コメント】

高橋博子（たかはし・ひろこ／奈良大学教授）

ピーター・カズニックさん、どうもありがとうございました。私自身、もっと聞きたい話なのですが、ただ私の役割というのは司会なので、締めくくりの言葉をお願いせざるを得ませんでした。でも、限られた時間ながら。本当に大事なお話をしてくださったと思います。ありがとうございます。皆さん、Q&Aのところに質問がある方は入れてください。ただ、時間に限りがありますので、すべての質問に答えることができないかもしれないけれども、その点どうかご容赦ください。

私の方から、短い時間でコメントを少しお話ししますと、私は歴史研究をしてきたものですから、1940年代、50年代、冷戦がいかに始まったかという問題についても研究しておりました。トルーマン大統領は善悪二元論の演説を行い、トルーマン・ドクトリンというものを出して、無神論的共産主義対キリスト教的民主主義の戦いなのだという、そういうプロパガンダを1940年代に展開し、それによって軍事費が増大して冷戦が拡大しました。あと中華人民共和国の成立で、アメリカ国内でマッカーシズムが起こって、さらに冷戦が厳しい状態になってしまったという状況について研究しておりました。そうすると、本当に今の状況というのが、まさしく冷戦の始まりそのものがくり返されつつあると思います。

ですから、カズニックさんがおっしゃるように、今まさしく外交や交渉、それを中心に解決するという事を本当に世界中のリーダー、あと市民が考えないと、本当に第三次世界大戦が起こりかねないという危機感を私も持っております。

ここからは質問なのですが、私がもう一つ懸念しているのが、世界的な第三次世界対戦が心配であるということと同時に、私が住んでいるこの日本が、再び第二次世界対戦以前の状態になってしまうのではないかと、そういう心配があるわけです。ですから、冷戦のみならず、第三次世界大戦、第二次世界大戦のような状況が起こってしまうのではないかと心配しております。特に、安倍元首相が核共有という発言を、ロシアのウクライナ侵攻の三日後にテレビ番組で発言して、日本国内でも特に自民党の右派は核共有を唱えておりますし、維新の会も核共有をいまだに唱えているわけで、彼ら彼女らの発想というのは、結局核兵器、つまり広島、長崎で起こったことについて、極めて軽視しているように思うのです。つまり、核兵器というものが自衛のために有効だったら憲法に違反しないという解釈を、安倍元首相が首相だった時に政府の判断として出しているわけです。

ですから、核兵器というのは、放射性降下物を出さない場合もあるのだ、それが広島、長崎の場合なのだ、こういう見解をアメリカは出していましたけども、日本政府も実は、広島、長崎の放射性降下物、黒い雨に代表されるように、そういう黒い fallout、radioactive fallout をない、もしくは極めて軽視する立場を取っております。ですか

ら、核共有とか核保有といった場合に、日本だからよく知っていると思われているのですが、そのトップの日本の政府そのものが、あまりにも杜撰な核兵器感を持っているわけです。ワシントンDC近郊にいと、特にリベラル派の人たちは、日本が核武装するとか、核共有するという発言があった時に大変危機感を抱く方がいて、その中でピーター・カズニックさんもその中の最も大事な一人だと思うのですが、こういう報道が出てきた時に、カズニックさんはどのように感じたかということ、もう少し詳しくお話いただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

(校正：高橋博子)